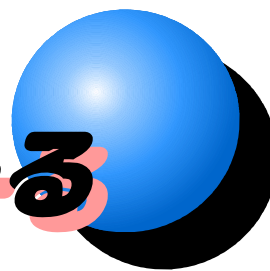




ゆい

・まーる



★VOL 4 令和2年9月3日発行



絵本の楽しさをあそそ分け

■「すいかのプール」

アンニョン・タル／作

斬 新たなアイデアに満ちた作品。●スイカを半分に切った断面がプールになるという奇抜なアイデアにプラスして、マンガのような構図にしたり、人とスイカの大小が入れ替わったり…不思議な世界ですが、すんなりと入り込めます。●スイカのプール遊びを楽しむ子どもやおとなの表情が良く、〈スイカ〉と〈水遊び〉という夏の楽しみを同時に味わえるスグレもの。●最後のページで夏の終わりを演出するうまさ光ります。気持ちの良い夏の絵本。4歳くらいからおとなもどうぞ。



です。●どこまでも広い真っ白な紙に絵の具を好きなように塗りたいなんてことは、現実の世界ではできないことですが、この作品を通して心を自由に開け放つことができます。●古典的名作のピーター・ス



ピア作「きつと みんな よろこぶよ」と一緒に読むと、心の自由をいっそう感じることがができます。4歳くら

いから。

■「まいにちたのしい」

KAKATO／文 オオクボリュウ／絵

ふ しぎな絵と言葉のリズムを味わう作品。●子どもの一日を描きつつ、短い言葉がくり返しながら少しずつ



ずれるような感覚で変わっていきます。絵も言葉に連れ添うように変化します。●この絵本は、声に出して読むと、楽しさがぐんとアップします。「タタタタ」というような4文字の文節がずっと続き、リズムとビート感あふれる音楽のようです。●読んでもらって楽しむ絵本で、2歳後半くらいから。●言葉の変化を楽しめる年齢になれば、一人読みも楽しい作品。

■「こんにちは! わたしのえ」

はたこうしろう／作

表 紙の絵が躍動しています。

「まっしろのまんなか／いろがうまれる」で始まる作者のメッセージは、気持ちのおもむくままに、全身を使って自分の色を生み出そう!



■「おおぐいタロー いっちょくせん」

マスダカルシ／作

タイトルそのままに、表紙から裏表紙まで楽しめる作品。●表紙をめくるとタローの紹介が始まり、目の前に現れる食べ物や物をそっくりと次々に気持ちよく食べ、飲み込んでいきます。ただ、それだけの内容ですが、〈そんなバナナ〉と思う展開が実に楽しくおもしろい！●裏表紙と見返し（裏表紙の手前のページ）にもお楽しみが…。3歳くらいから。



■「そらいろのてがみ」

ながしまひろみ／作

季節の移ろいを味わう作品。●ゆきちゃんに、そらいろの便せんで手紙が届きます。手紙には「もうすぐ／はるがきます」の1行。ゆきちゃんは、風、暖かさで春を実感します。●夏・秋・冬の訪れを〈そらいろのてがみ〉で感じ取るゆきちゃんの表情が豊か。温かみのある絵に、子どもを包み込む両親の愛情が重なります。3歳くらいから読み聞かせに。



■「パパのぼり」「パパおふろ」

きくちちき／作

お父さんが1歳くらいの我が子に読んであげられる数少ない作品。●お父さんにとって、遊びとお風呂は、どちらも子どもと触れあえる大事なひととき。絵本の読み聞かせも同じ。お父さんの膝の上で子どもはお父さんの声を聴いて、お父さんと一緒に楽しむ・触れあえ



る貴重なひとときです。お試しを。



絵本のお届けサービス
「ペンギンくらぶ」で
好評を得た1冊

■「いまがたのしいもん」

シャーロット・ゾロトウ／文

あ ーお母さんから次のような感想が寄せられました。「この絵本を読んだ後、いつも娘の方から抱きしめてくれました（笑）。娘も主人公と同じで、今のままだいい、ママ

いまがたのしいもん



とずっと一緒に寝たいからと言っています。娘も私もお気に入り、いっぱい読みました」。●日本での発売は1991年。●主人公は小さな女の子。お母さんが女の子に、大きくなったらどんな人になりたいか問いかけると、女の子は今のままだいい！と答えます。今が楽しいこと、おとなになったらしないこと、できないことをいっぱいお母さんに伝えます。女の子がとても心豊かな子ども時代を過ごしているかが伝わってくる場面です。●作者は、お母さんにもおとなになって良かったこと、とりわけお母さんになった喜びを用意し、親子それぞれの幸福感を描いています。●同じ作者の「そらはあおくて」のオリジナルは1963年。2018年に、絵を変え、初邦訳で今の子どもたちと親世代に届きました。●お母さんは幼い娘に、お母さんの子ども時代、お母さんのお母さんが子どもだった時代の写真アルバムを見せ、時代による暮らしの違いはあっても〈変わらない大切なこと〉を娘に伝えます。読み終えるとタイトルの良さに気づかされます。3歳くらいから。





本との出会いを ボーイズ＆ガールズに

■「はじめてのキャンプ」

林明子／作

できなかったことができるようになる喜びが伝わってきます。●初版は1984年。表・裏表紙を見ると、子どもたちにとって「キャンプ」は、楽しさ

と同時にたくさんの道具を持って行く大変な体験だったことが分かります。●近所の大きな子どもたちに交じって、キャンプに行きたいなほちゃんは、お隣のともこおばさんをお願いします。●大きな子どもたちにとってなほちゃんは足手まとい。でも、なほちゃんは重い荷物を持ち、薪集めもがんばり、夜中のおしっこも泣かないでできた！…なほちゃんの頑張る姿と顔の表情がとてもステキ。ちゃんとキャンプができたという満足感が、得意げな笑顔に表れています。5歳くらいから小学校低学年に。



■「バイバイ、わたしの9さい！」

ヴァレリー・ゼナッティ／作

子どもにとっての〈10歳の意味〉と〈自分で考える〉ことを感じ取るフランスの物語。●もうすぐ10歳の誕生日を迎える女の子タマラは、10歳になるってどん

なことだろうと一所懸命考えます。ある日、新聞の広告に〈世界では4秒に1人が飢えて命を失っています〉という記事と黒人のはだかの男の子の写真を見つけます。●そ



の瞬間、タマラはいてもたってもいられない気持ちになり、飢えに苦しむ子どもたちを助けるために、自分でできることを考え始めます。お母さんに協力してもらい、寄付もしますが、もっと何かできないか…考えた方法がとってもユニークで大胆。●表紙にはタマラとサッカーの英雄／ジダンが描かれていますが、読み終えると、表紙の意味が分かります。小学校低中学年に。

■「ゆりの木荘のこどもたち」

富安陽子／作

佐竹美保／絵

昭和16年という

日本が戦争を始めた時代にタイムスリップし、その時に交わした大事な約束を果たす物語。●ゆりの木荘は、100年以上前に建てられた洋館で、今は6人の高齢者が暮らす老人ホームに変わりました。この6人が、約束の秘密を解き明かす主人公たち。●著者は、日本の風土に根ざしたふしぎな物語をたくさん書いていて、このお話では、〈ざしきわらし〉を物語の中心に据えました。●子ども時代に戻った高齢者6人が、それぞれ与えられた〈約束〉に関わる役割を果たし、細部に仕掛けられたヒントを鍵に協力しながら探し出す、上質の作品。約束を果たした時の場面を読むと、心が温かくなることでしょう。絵も6人の個性を豊かに表現しています。●作者が思いをこめ、語らせるセリフ、「私たちはもう十分幸運じゃないの。あの戦争の4年間を生きぬいて、こおんな年まで元気でいるんだから」は、平和な時代の大切さに気づかされます。小学校中高学年に。



■「紙ひこうき、きみへ」

野中柊／作 木内達朗／絵

心が軽くなる中学生向けのおとぎ話。●ある朝、シマリスのキリリは、その日、特別なことが起きると感じます。その通り、どこからか紙ひこうきの手紙が飛んできて、キリリの頭に当たります。●その日の夕方、キリリは黒いリス／ミケリスのミークと出会い、作者は、「…はじめてだけれど、待っていた。このリスが会いにきてくれるのを、長いあいだ、待っていたのだ、と思いました」と書いています。●この物語は53ページという短さですが、2匹のリスが友情を育み、温めるために交わす印象的な言葉や情景がたくさんあります。〈空を切り取って作った紙ひこうきの手紙、心が重くなるとからだも思うように動かなくなる、旅に出て、ここにいるよと伝えること、ハーモニカのメロディが君を探す・ぼくを見つける〉など…。静かな雰囲気や抽象的な言葉が多く、とっつきにくい物語ですが、2匹の言葉が妙に気になり、最後まで一気に読めます。



■「じりじりの移動図書館」

廣嶋玲子・まはら三桃・濱野京子
・工藤純子・菅野雪虫／作

児童文学の人気女性作家5人による短編アンソロジー。●共通する材料は、「移動図書館ミネルヴァ号・スーツを着こなした白いひげの館長・黒い制服に身を包んだ長い黒髪の女性運転手・ミネルヴァ号が到着すると鳴る目覚まし時計の〈じりじり〉の音」。●それぞれの作家が生み出す物語はどれも、主人公の子どもたちをふしぎな世界へ連れだし、本をめぐる冒険に誘います。●



何よりも、主人公たちが冒険から現実の世界に戻ってきたときの成長や変化が読み手の心を熱くさせます。1冊の本に5つの味の違うおいしい料理があるようなもの。お得です。小学校高学年から中学生に。

■「Q→A」 長江優子／作

アンケートが物語の大事なキーワードになっています。

●5人の中学3年生が新学期のアンケートに答えた自身の問題や悩みを、受験が近づいた時期にもう一度振り返り、アンケートの回答と向き合う物語。●自分自身でどう解決していくのか…5人が互いに関わり、刺激しあい、自分を見つめ直し、将来を決める時期に、それぞれが前に向かって確かな1歩を踏み出します。5人の物語が前半・後半の2部構成で作られ、変化が分かりやすく読みやすい作品。



■「自由への道」 池田まき子／作

奴隷解放に命をかけた黒人女性／ハリエット・タブマンの物語。●ハリエットは元奴隷。逃亡奴隷をアメリカからカナダへ逃がす「地下鉄道」という組織の〈車掌：カナダまでの案内役〉を

長く務め、奴隷解放に尽くし、2016年、アメリカの20ドル紙幣の肖像に使われることになりました。アメリカでは子どもからおとなまで多くの人に知られ、尊敬される存在です。●著者は、ハリエットの一生とともに、奴隷制度や人種差別、地下鉄道を分かりやすく解説していて、現代のアメリカが直面している問題を知ることにつながります。中学生に。

